

# ダム下流の生態系保全に関するセミナー



ダムの存在により河川における土砂の移動は遮断され、ダム下流河川の河道の構造や河床材料、生態系は変質します。ダムの下流では土砂の還元などが行われていますが、どの程度の土砂量をどのように供給したらよいのかは必ずしも明らかではありません。今回のセミナーでは、砂河川である矢作川を事例としながら、土砂供給などダム下流河川生態系の保全について議論します。

**日時** 平成 30 年 1 月 25 日 (木) 13:30-17:45 (意見交換会 18:00-20:00)

**場所** TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口 7B

**主催** 水源地生態研究会

**共催** 豊田市矢作川研究所

**後援** 国土交通省中部地方整備局、応用生態工学会、(一財)水源地環境センター

**協力** 応用生態工学会名古屋

●参加費：無料 (ただし、意見交換会については会費 4,000 円[当日お支払いください])

●定員：150 名 (定員になり次第締め切ります)

★CPD：このセミナーは土木学会継続教育(CPD)制度の認定プログラム (認定番号：JSCE17-1277、4.0 単位) です。

★申込み：①氏名・ふりがな②所属③意見交換会の出欠④連絡先 (郵便番号、住所、電話番号、Email アドレス) を明記のうえ、メールで seminar@wec.or.jp (水源地環境センター研究第三部) までお申し込みください。



問い合わせ先：水源地生態研究会事務局  
一般財団法人水源地環境センター 研究第三部

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-14-2 電話：03-3263-9945

# ～プログラム～

13:30-13:35 開会挨拶

13:35-13:40 来賓挨拶

13:40-14:00 趣旨説明 辻本哲郎（名古屋大学名誉教授）

14:00-14:20 現場での取り組みの報告 末松義康（国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所）

14:20-16:40 研究報告（途中休憩 20分程度含む）

- ダム下流河川生態系に最適な土砂供給量の考え方 竹門康弘（京都大学防災研究所）
- 土砂供給に伴う魚類の生息場変化の捉え方 —特に、アユの餌資源に着目して— 萱場祐一（土木研究所自然共生研究センター）
- ダム連続河川（矢作川）における流下 POM の流程と季節による動態 谷田一三（大阪市立自然史博物館）・白金晶子・内田朝子（豊田市矢作川研究所）・平祥和（大阪市立自然史博物館）
- 矢作川におけるダム下流の生物群集の変化 内田朝子・白金晶子・山本敏哉（豊田市矢作川研究所）
- 矢作川における礫投入と生物の応答 山本敏哉・内田朝子・白金晶子（豊田市矢作川研究所）

16:40-17:40 議論 コーディネーター 辻本哲郎（名古屋大学名誉教授）

17:40-17:45 閉会挨拶

（18:00-20:00 意見交換会 TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口内）

